利益相反とは？

- 医師・研究者などの専門家が製薬企業から金銭などを受け取っている場合に、医師・研究者が患者・市民のためよりも製薬企業の利益になるような行為や発言をする、あるいはそのように疑われることがある。
- 医師・研究者などが、自分（あるいは所属する組織）の利益と患者・市民の利益が対立する立場にあるとき、利益相反があるという。

利益相反が生じる場合

- 製薬企業から利益を得る
  - 講演料、原稿料など
  - 研究に対する寄付金、寄付講座など
  - 便宜供与、各種サービス
- 政府・厚生労働省から利益を得る
  - 厚生労働科学研究費
  - 審議会・検討会等の委員
- 診療によって利益を得る
  - 検査、手術、薬の処方等
  - ワクチン接種

薬害と利益相反

- 医師・研究者などの専門家が医薬品と健康被害の因果関係を否定することが、被害者の救済を阻むことにつながる。

サリドマイド薬害事件の例

- 大阪大学　杉山博教授
  - 奇形の原因がサリドマイドであることが強く疑われることを示したレンツの調査結果に対する印象操作

レンツの調査結果(1962)

母親の妊娠初期におけるサリドマイドの服用	症例 奇形の子供	対照 健常な子供
あり	90	2†
なし(確認できず)	22*	186
計	112	188

* 22例のうち妊娠初期のサリドマイド使用が明確に否定された例はなかった。

† 2例とも服用の時期は不明(注:ケースと同じ基準を用いれば「服用なし」に分類すべきかもしれない)。

- 症例におけるサリドマイドの使用割合：90/112=80.4%
- 対照における使用割合:2/188=1.1%

日本医事新報

いわゆるサリドマイド問題に関する統計的考察

大阪大学工学部
教授 杉山博

一、いわゆるサリドマイド問題について

一九六一年の一一月一八日、西独の Lenz 博士は、重症四肢奇形児二一例の母親中一四人が、当時広く用いられていた鎮静催眠剤サリドマイドを妊娠初期に服用していたことが判明したとの理由から、この薬こそ奇形の原因ではないかとの発表を行なつた。この発表において、Lenz 博士は、この奇形は新しい型の奇形であるとの見解に立つているが、このことの真偽は、本問題を論ずる上において一つの重要な問題点をなしている。

さらに、彼は約一カ月足らずの後、Lancet 誌上において「奇形の型をみるだけで、それがサリドマイドによつたものか否かを推定することができる」と述べた。この言葉は、彼が既にこの時点においてサリドマイドが原因であり、しかも生ずる奇形はサリドマイドに特有であつて、他の従来の奇形と区別可能という確信を有していたことを意味すると解釈せざるを得ない。

この問題は医学界はもとより大衆の異常な関心を惹起するに至り、これを契機として〝薬と奇形〟というテーマは現在、医学・薬学界における最も大きな研究課題の一つとなつた。

その後、すでに七年余を経た今日なお、動物実験の結果をもつて、ある薬のヒトに対する催奇形作用を予測することはできないというのが、大方の見解であると判断しても誤りではなかろう。しかりとすれば、この種の現象を如何にすれば予防でき、あるいは少なくともできるだけ早く危険信号を臨床の場において読みとることができるのであろうか。

このような観点からサリドマイド問題をみるとき、そこには、疫学あるいは統計学の立場からみて、多くの示唆あるいは反省すべき点が見出されるように思える。

ところで、Lenz 博士は一九六二年六月 Dtsch. med. Wschr. 誌上において、サリドマイド原因説の根拠として次の諸点をあげている。

1、多種類の組合わさつた新型の奇

日本医事新報の杉山論文

- 大阪大学　杉山博教授
  - 奇形の原因がサリドマイドであることが強く疑われることを示したレンツの調査結果について、調査に欠陥があるかのような印象操作
  - サリドマイド訴訟では被告側証人として出廷
    - レンツの論文を読んでおらず、製薬企業から見せられた資料をもとに論文を書いた。
    - 製薬企業から金銭供与があったかは不明だが…。

レンツ証言に希望託す

サリドマイド患者の家族

「やっと、ここまで」

大阪から娘を連れた父親も

1971.11.2 毎日

サリドマイド訴訟

ティエルシュ証言始まる

「販売前にわかっていた」

聴き入る患者家族

1973.10.17 朝日（夕）

1973.12.8
サンケイ

手や耳がほしい！

"怒り"ぶつける

サリドマイド児代表

裁判勝利のための関西集会

「きれいな言葉も、お金もいらない。ふつうの人のような手がほしい。耳がほしい」―。七日夜、大阪・北区中之島の大阪中央公会堂で開かれた「サリドマイド裁判勝利のための関西集会」で、五人のサリドマイド児が苦しみと怒りをぶつけた。サリドマイド児自身が公の席上で発言したのはじめてで、熱心な聴衆約五百人の出席者の涙をしぼった。

サリドマイド問題では、六十三年秋、全国八つの裁判所に損害賠償を求める訴えを出している。このうち、東京地裁の進捗はいちばんよく、昨年秋から証人尋問が始まり、今年夏ごろ、原告側の証人として、サリドマイド被害者の家族が法廷で証言する予定。

サリドマイド弁護団（団長・森本ミルク中央法律事務所長）ならびに、被害者の連帯をはかり、一般市民の支援を得るため集会を開いた。

会場にはサリドマイド被害者の家族のほか、スモン、森永ミルク中毒の関係者、一般市民らも集まった。

はじめに、サリドマイド児の父親が、"親の苦しみ"を訴えた。

「手や耳がほしい」―と多数の人を前に、はじめて苦しみや怒りを訴えるサリドマイド児（大阪中央公会堂で）

次に、同じ自分のニックネーム、背に「薬害犯人」のゼッケンをつけた被害児が壇上へ。髪がなく、胴から直接手が出た生徒。耳がほとんどない子―全部で十八人。

東住吉区田辺小学校二年、加藤中学一年、寺政裕子さんら、こちら代表五人が進み出て、用意してきたスモモをみんなから渡された。

「指や手が欲しいので、薬剤はきらいです。病院へひとりでいくことも出来ません。わたしはきれいな顔も、お金もいらない。ふつうの人のような手がほしい」―。

「手や足の不自由なんはわたしたちだけでたくさんです。電車のなかで、みんなはにらみるるしみは、このうえもおりません。大自本薬業の社長は、わたしたちのことがわかっているのでしょうか。不自由なかったをテーブルでさえたから薬業会社や、厚生省なども出席した。

サリドマイド児は、いま小学三年生から中学二年生。さる七月、広島現業の警戒で二人が成人となったことがあるだけで、多くの人全員に被害児が出すのはじめて。最後に「世の中にはもっとかたがが不自由な人がいます。スクラムを組んでがんばりたい」と述べた。被害者らのけなげな決意に、聞くひと涙を多かった。

ついに3千万通を突破

全国の郵便滞留

郵政省は全逓労組の年末闘争の影響で全国の郵便物滞留が七日夕、三千万通を突破したことを明らかにした。前日にくらべ約千二百万通増えており、この未処理分がつづくと年末の小包や年賀郵便の遅配欠配も避けられない情勢となっている。

同省の調べによると、七日正午現在、全国四百四十九局の郵配局でたまっているのは千九百四十五万八千通。七日、一日ストを決行した郵政職員が郵便内十二局のうちが九十九局、さらに全国の郵便局の郵配局以外にも二千万通を超える郵便物があることが明らかになり、三千万の大台を超えた。

阪大総長わびる

因果関係否定の杉山論文で

大阪大学の高田原太郎総長は、サリドマイドと奇形発生の因果関係を否定した同大学工学部、杉山博教授（工業数学）のいわゆる"杉山論文"について、サリドマイド裁判の当事者に迷惑をおかけしたと、公式の場で初めて"おわび"をしていたことが七日、明かれた。

「サリドマイド被害者の関西集会」で明らかにされた。

杉山論文は、四十六年五月、阪大学報の「日本医事新報」に「いわゆるサリドマイド問題に関する統計的考察」と題して発表。サリドマイド薬服用と奇形発生の因果関係があるとする西ドイツのレンツ博士の主張に対して「データが根本的に怪しい」と批判。奇形児の発生率とサリドマイドの販売量との関係をみるグラフを添え「因果関係がみられない」と結べた。

七日の集会の席上、"おわび"の事実を明らかにした大阪大学サリドマイド裁判を支援する薬害公害世話人、中村裕史・基礎工学部助手によると、高田総長の"おわび"は十二月二十七日付公文書とし

高田総長

て「サリドマイド裁判を支援する市民の会」代表、平沢正茂氏・千葉県船橋市小金原七丁目三番地に郵送された。

高田総長は、この中で「杉山論文に誤りがあった。誤り大学の責任者にあるものとして、心から遺憾の意を表します。私としても不注意な研究発表が社会に及ぼす影響の大きさを今さらながら感じ、今後、細心の注意をもって学問研究に従事し、再びかような過ちのないよう、本学研究スタッフ一同ともに深くいましめてゆきたい」とのべている。

この"杉山論文"は発表されるとすぐ、高橋晄正・東大講師らが「薬学的に誤りがあること、初歩的なミスを指摘」。杉山教授は九月二十九日付の「日本医事新報」誌上に「レンツ論文の誤を指摘する」と題する論文を発表。「不適当だった」と初歩論文を認めている。

国・会社、責任認める

サリドマイド訴訟　初の直接交渉

将来にわたり救済

因果関係、文書で確認へ

和解へ前進

1973.12.24 朝日

和解確認書に調印

サリドマイド訴訟 11年ぶり終結

確認事項を誠実に実行

諸施策速やかに実現を

953

1974.10.14 東京

なぜ医師はワクチンを推奨するのか？

鳥海佳代子：東洋経済ONLINE
https://toyokeizai.net/articles/-/141120?display=b

なぜ医師はワクチンを推奨するのか？

- 自費診療である予防接種はどれだけ懇切丁寧に効果や副反応を話したところで、そのワクチンを接種しなければ、医療機関はおカネをもらえません
- （定期接種は接種を前提に診察し、その日の症状等で接種できなかった場合は地方自治体にその費用を請求することはできます）。
- このように任意接種の場合は、接種しなければ、いくら親に30分かけて説明しても医療機関の儲けはゼロです。
- …採算性を考えずに患者にしっかりと向き合う姿勢を見せてくれる医者、しっかりと質問や相談ができる医者を探しておくことも、自分や家族を守るうえでは欠かせません。

なぜ医師はワクチンを推奨するのか？

毎日新聞

「ワクチンがお金に見えた」　総額17兆円、コロナ特例支援の功罪

高橋祐貴　経済 | 速報 | 金融政策・財政

毎日新聞 | 2023/3/10 07:30（最終更新 3/11 05:57）　有料記事　2779文字

オミクロン株対応ワクチンの接種を受ける男性（左）＝東京都港区で2022年9月20日午前9時35分、幾島健太郎撮影

政府が医療機関に対する新型コロナウイルスワクチン接種業務への特例的な支援の見直しを進めている。支援はワクチン接種を急加速させる効果があったが、支援額そのものが適正だったのかという検証はなされていない。毎日新聞が入手したある病院の経理資料からは、支援によって病院経営が劇的に改善した実態も浮かび上がる。

「こんなにもらっていいの」

ある地方都市の総合クリニック。繁忙期を除き、毎月700万～800万円の赤字を抱えていたが、新型コロナが拡大した2020年1月～22年9月末は大幅な黒字に転換した。

https://mainichi.jp/articles/20230309/k00/00m/020/347000c

なぜ医師はワクチンを推奨するのか？

- クリニックでは22年9月末までに計約6500人に接種し、収入はワクチン接種の特例加算と、接種に関係する頭痛や発熱などの診療報酬で計1億8000万円に上った。
- 接種業務による特例加算の効果が大きく、多い月で約1500万円の黒字を計上。経営が安定した結果、数千万円のがん検査機器も購入できたという。
- 国が医療機関に支給する費用は1回あたり2070円とし、時間外は730円、休日は2130円を加算。接種回数の多い診療所（クリニック）にはさらに、1回2000～3000円を、病院には1日10万円を上乗せする仕組みもつくった。
- この結果、季節性インフルエンザワクチンに比べ、医療機関は接種1回につき、病院では2倍超、診療所は約3倍に相当する最大1万円超を受け取ることが可能になった。